

彙報

会長 定延 利之

——常任委員会——

日本語学会 2024 年度第 1 回常任委員会

日時：2024 年 6 月 22 日（土）17:00～19:00

場所：オンラインおよびメール審議（6 月 22 日～6 月 26 日）

出席者：定延利之（会長）、青木博史、上山あゆみ、菊澤律子、小林正人、滝浦真人、千田俊太郎、中山俊秀、広瀬友紀、堀江薫、宮本陽一（以上、常任委員）、南本 徹（事務局長）

オブザーバー：加藤重広（編集委員長）、松浦年男（大会運営委員長）、杉崎鉦司（広報委員長）、木山幸子（夏季講座委員長）、佐々木冠（国際発信力強化小委員長）、奥 聡（倫理委員長）、鄭雅云、脇坂美和子（以上、事務局委員）

[報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
 - ・今期の組織・役員が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第 169 回大会（2024 年秋季大会）：2024 年 11 月 9 日（土）～10 日（日）、北海道大学（北海道大学と共催）
 - 第 170 回大会（2025 年春季大会）：2025 年 6 月 28 日（土）～29 日（日）、明海大学浦安キャンパス
 - 第 171 回大会（2025 年秋季大会）：日程未定、岡山大学
 - 第 172 回大会（2026 年春季大会）：日程未定、桜美林大学
 - 第 173 回大会（2026 年秋季大会）：未定
 - 第 174 回大会（2027 年春季大会）：日程未定、日本女子大学
 - 第 175 回大会（2027 年秋季大会）：未定
- (3) 各種委員会からの報告

・本彙報の各委員会の項目を参照。

(4) 事務局からの報告

1. 『言語研究』の公開入札について
『言語研究』第 166 号、第 167 号の出版について、1 月 24 日公示、2 月 23 日締め切り、2 月 26 日開札の日程で一般競争入札を行い、開札の結果、今年度も『言語研究』の印刷を中西印刷に委託することが決定したことが報告された。
 2. 今年度のメルマガスケジュールについて
今年度のメールマガジンの配信予定内容を確認した。
 3. 日本学術振興会育志賞について
推薦を見送ることが報告された。
- (5) 2023 年度言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト実施報告について
- ・1 件のプロジェクトの実施報告書・会計報告書を確認した。
- (6) 2024 年度言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクトについて
- ・申請がなかったことが報告された。

[審議事項]

- (1) 2023 年度決算について
 - ・2023 年度決算書について検討を行い、これを承認した。
- (2) 2024 年度予について
 - ・2024 年度予算案について審議し、これを承認した。
- (3) 第 168 回大会における情報保障について
 - ・2 名の学会員から情報保障の申請があったので、文字通訳を提供することを承認した。
- (4) 2025 年度以降の科研費申請について
 - ・現在の科研費は今年度が最終年度であることから、2025 年度以降の科研費の新たな採択を目指して申請を行うことを承認した。
- (5) 大会予稿集の廃止とオンライン資料共有システムへの移行について
 - ・大会運営委員会からの提案を審議した結果、第 169 回大会をもって大会予稿集を廃止すること、その機能はオンライン資

料共有システムと要旨集に引き継がれること、これらのことについて評議員会で審議を受けることを承認した。

- (6) 倫理委員会の任期の見直しについて
- ・倫理委員会からの提案を審議した結果、倫理委員の任期を1年から2年へと延長すること、全委員の任期を10月開始とすること、経過措置として2024年4月1日から2期目を務める委員の任期を半年間に縮めること、これらのことについて評議員会で審議を受けることを承認した。
- (7) 学会賞選考委員会の規定の見直しについて
- ・学会賞選考委員会からの提案を審議した結果、学会賞選考委員会の構成に関する規定について、学会賞選考委員会において見直しを検討することを承認した。
- (8) 用務のための旅費等の支給に関するガイドラインの見直しについて
- ・今年度は海外から講演者を招聘するため、科研費を財源として、ガイドラインが定める上限を超える金額を支出すること、今後は柔軟な運用を行えるようガイドラインを見直すこと、これらのことについて評議員会で審議を受けることを承認した。
- (9) 能登半島地震の被災者に対する会費免除について
- ・2024年1月に発生した能登半島地震の被災者に対して会費を免除することを承認した。
- (10) アイヌをはじめとする少数民族を対象とする研究の倫理的課題について
- ・日本文化人類学会から2024年4月に送付された声明を受け、日本語学会がとりうる行動について検討すること、このことについて評議員会の審議を受けることを承認した。

——評議員会——

日本語学会 2024 第 1 回評議員会

日 時：2024年6月29日（土）10:30～12:10

場 所：国際基督教大学ダイアログハウス国際会議室

出席者：定延利之（会長）、青木博史、青柳 宏、赤楚治之、天野みどり、伊藤さとみ、上山あゆみ、内堀朝子、江口 正、江畑冬生、大島 David 義和、大津由紀雄、奥 聡、尾谷昌則、小野 創、風間伸次郎、加藤重広、木部暢子、窪蘭晴夫、呉人 恵、小泉政利、小西いずみ、小林正人、斎藤 衛、佐々木冠、沈 力、杉崎鉦司、滝浦真人、田窪行則、田中真一、千田俊太郎、塚本秀樹、中谷健太郎、長屋尚典、那須川訓也、成田広樹、野田尚史、林 徹、林 範彦、原田なをみ、広瀬友紀、藤代 節、堀 博文、堀江 薫、松浦年男、松本 曜、三宅知宏、宮本陽一、吉田和彦、米田信子（以上、評議員 49 名）

委任状：2名

オブザーバー：上野善道（顧問）、木山幸子（夏季講座委員長）、南本 徹（事務局長）、鄭 雅云、脇坂美和子（以上、事務局委員）

[報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
- ・今期の組織・役員が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
- ・本彙報の常任委員会の項目を参照。
- (3) 選挙管理委員の選挙について
- ・準備上の事情により、選挙を半年間延期することが報告された。
- (4) 各種委員会からの報告
- ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (5) 事務局からの報告
- ・本彙報の常任委員会の項目を参照。
- (6) 会長就任講演の『言語研究』掲載時期について
- ・2021年度の新会長就任の際に定められた規定に今後も従うことが報告された。
- (7) 2023年度言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト実施報告について
- (8) 2024年度言語の多様性に関する啓蒙・

教育プロジェクトについて

- (9) 第 168 回大会における情報保障について
 - ・以上 (7) ~ (9) については、常任委員会にて報告されたとおりの内容が報告された。
- (10) 手話通訳を用いた調査について
 - ・複数の学会員が第 168 回大会の場を借りて手話通訳を用いた調査を行うことが報告された。
- (11) 能登半島地震の被災者に対する会費免除について
- (12) 学会賞選考委員会の規定の見直しについて
 - ・以上 (11) および (12) については、常任委員会において審議されたとおりの内容が報告された。
- (13) その他
 - ・会費の自動引き落としに関して事務的な誤りがあったこと、この誤りはすでに是正されたことと、この誤りについての謝罪の意が報告された。

[審議事項]

- (1) 2023 年度決算について **【別表 1】**
 - ・2023 年度決算書について審議をおこない、これを承認した。
- (2) 2024 年度予算について **【別表 2】**
 - ・2024 年度予算案について審議をおこない、これを承認した。
- (3) 2025 年度以降の科研費申請について
- (4) 用務のための旅費等の支給に関するガイドラインの見直しについて
- (5) 倫理委員会の任期等の規定の変更について
- (6) 大会予稿集の廃止とオンライン資料共有システムへの移行について
- (7) アイヌをはじめとする少数者を対象とする研究の倫理的課題について
 - ・以上 (3) ~ (7) については、審議の上、常任委員会で承認されたとおりの内容が承認された。ただし、大会の予稿集の廃止に関連して、新たなオンラインシステムによる資料の共有が発表者に直ち

に義務づけられるものではないことが確認された。

- (8) その他
 - ・学会が主催または外部団体と共催するイベントの告知等に使用するロゴの制定を検討することが承認された。

——編集委員会——

- (1) 前期委員会の活動について

前期の編集委員会 (2021 ~ 23 年度) は、166 号の入稿までを担当した。各年度の投稿状況は以下の通り。「一般」は一般論文、「他」は特集論文・フォーラム・書評論文・書評紹介を指す、% 以外は本数。

◇ 2021 年度

	一般	他	計
新規投稿	25	8	23
修正投稿	14	5	19
採択数	15	4	19
採択率	51.7%	80%	55.8%

◇ 2022 年度

	一般	他	計
新規投稿	11	10	21
修正投稿	5	7	12
採択数	4	7	11
採択率	25%	41%	33.3%

◇ 2023 年度

	一般	他	計
新規投稿	15	18	33
修正投稿	6	8	14
採択数	1	6	7
採択率	6.7%	23%	14.9%

◇ 2021 ~ 23 年度

	一般	他	計
新規投稿	51	36	87
修正投稿	25	20	45
採択数	20	17	37
採択率	26.3%	30.3%	28%

(2) 『言語研究』査読者一覧(2018年4月1日～2024年3月31日)

前々期(2018～2020年度)の査読者もこれまで掲載されていないので、今回あわせて掲載させていただく。査読していただいた先生方には心から御礼申し上げます。

青木博史 浅原正幸 阿部潤 安部朋世 天野みどり 有蘭智美 有田節 有元光彦 庵功雄 五十嵐陽介 井川詩織 石川慎一郎 井島正博 磯野達也 伊藤さとみ 伊藤智ゆき 稲垣和也 井上京子 井上優 井原聡 今里典子 今仁生美 今西祐介 井元秀剛 岩田彩志 上原聡 上山あゆみ 内堀朝子 内海彰 漆原朗子 江口正遠 遠藤光暁 大神雄一郎 大木一夫 大熊富季子 大島ディヴィッド義和 大関洋平 大竹昌巳 大谷直輝 大西拓一郎 大野仁美 大橋浩 大堀壽夫 岡本順治 小川芳樹 大田垣仁 尾谷昌則 落合いずみ 小野創 小野寺典子 小原京子 葛西宏信 加藤重広 金澤俊吾 加納希美 狩俣繁久 河内一博 川原功司 川原繁人 菊田千春 岸本秀樹 北田伸一 北野浩章 北原久嗣 北原真冬 衣畑智秀 木部暢子 木村崇是 木山幸子 清澤香 楠本紀代美 熊代敏行 藏藤健雄 倉部慶太 栗林裕 黒田航 桑本裕二 郡司隆男 小泉政利 甲田直美 小西いずみ 小林茂之 小林正人 小柳かおる 小山哲春 齋藤文俊 齋藤衛 齋藤藤男 酒井智宏 坂井美日 佐々木冠 佐々木勲人 定延利之 佐藤琢三 眞田敬介 更科慎一 澤田治 澤田茂保 澤田淳 塩原朝子 塩原佳世乃 篠原和子 志波彩子 下地理則 白井聡子 菅原睦 杉崎敏司 梶本顕士 鈴木亨 鷺見幸美 高田智和 高田三枝子 高橋清子 高橋将一 高橋大厚 高橋真彦 高橋康德 高橋洋成 高山知明 高山倫明 高山善行 田川拓海 滝浦真人 滝沢直宏 滝田健介 竹沢幸一 田嶋圭一 田中英理 田中秀和 田中雄 谷口一美 玉岡賀津雄 田村澄香 千田俊太郎 塚本秀樹 津田智史 土屋智行 坪内佐智世 寺井あすか 時崎久夫

時本真吾 戸澤隆広 富岡論 友澤宏隆 豊島孝之 虎谷紀世子 中村渉 長屋尚典 鍋島弘治朗 新妻明子 二枝美津子 西尾純二 西岡美樹 西川賢哉 西山國雄 新田哲夫 野村益寛 野元裕樹 蓮沼昭子 長谷川明香 長谷川信子 濱田武志 浜野祥子 林範彦 早瀬尚子 原田走一郎 板東美智子 日高瑞穂 平沢慎也 平塚雄亮 平山仁美 広瀬友紀 深田智 福嘉教隆 藤井聖子 藤井友比呂 藤田知加子 藤本真理子 藤原敬介 保坂道雄 星泉 星英仁 堀田優子 本多啓 本間猛 前田直子 前田雅子 松浦年男 松岡就幹 松田謙次郎 松丸真大 松森晶子 丸山岳彦 水口志乃扶 南本徹 峯島宏次 三原健一 三宅知宏 宮内佐夜香 宮良信詳 茂木俊伸 初山洋介 森雄一 森賀一恵 森下裕三 守田貴弘 八亀裕美 八木橋宏勇 山岡政紀 山崎誠 山添秀剛 矢田勉 山田彬堯 山本恭裕 山本真吾 横越梓 吉池孝一 吉岡乾 吉川雅之 吉田幸治 吉田昌平 吉田永弘 吉村あき 米田信子 渡辺明 渡邊淳也 邊姫京 (Byun Hi-Gyung) Catt Adam de Chene Brent 鄭聖汝 (Chung Sung-Yeo) Douglas Roland 黄竹佑 (Huang Chuyu) 李勝勲 (Lee Seunghun) Miyamoto Edson T. 沈力 (Shen Li) 王安 (Wang An) Yang Muiyi 于一楽 (Yu Yile)

(3) 今期の体制

2024年度から2026年度まで、安藤智子 江畑冬生 加藤重広* 衣畑智秀 倉部慶太 菅沼健太郎 高木千恵 高橋洋成 田中牧郎 田村幸誠 中野陽子 西山國雄 藤井友比呂 以上13名で担当する(*は委員長)。

(4) 修正期間の厳格化

現在使っているエディトリアル・マネージャというシステム(以下EM)では、採用・不採用などの結果を登録するか、投稿者からの取下げ申請を承認するかしない限り、データがシステムに残り査読継続中の状態になる。その多くは、修正期間を過ぎ

ても提出がない投稿であるが、相当な時間を経過しても査読が終わらない事態であることは問題である。そこで、投稿者からの申し出を踏まえ、修正期限から最大3回・最大3ヶ月までは延長するが、申し出がないときは通知した上でこれ以上の延長はせず、査読を終了するものとする。

(5) 増ページへの対応

現在でも初回投稿時に分量の違反があれば受理せず修正してもらう原則で厳格に対応しているが、これまで修正採用時の増ページは特に厳しくチェックしていなかった。増ページは制作費を増大させることから、不必要な増ページが生じないように努めるべきであるが、多くの論文は査読コメントで記述が増加することを踏まえ1割程度(研究論文では5ページまで、フォーラム・書評論文では2ページまで、書評・紹介では1ページまで)の増ページは必要なものとして認めることとした。ただし、この基準を超えるものは査読者の意見を聞きながら編集委員会で可否を判断し、投稿者に伝えるものとする申し合わせを作成した。

(6) 執筆要項の修正

執筆要項とテンプレートに不整合があるため、軽微な修正を行う。

(7) 166号について

第166号には特集論文4本(うち2本は徳穂)が掲載されることになった。

(8) 170号の特集募集について

第170号(2026年7月刊行予定)で募集する特集のテーマは2024年8月中旬に学会ウェブサイトなどで発表の予定。特集論文投稿の締め切りは2025年8月末日としている。

——大会運営委員会——

2023年度第2回大会運営委員会

日時: 2024年4月4日(火) 17:00~19:00

場所: オンライン

出席者: 松浦年男(大会運営委員長), 白井聡子, 大滝宏一, 衣畑智秀, 小野智香子, 甲斐ますみ, 小町将之, 矢野雅貴, 田川

拓海, 吉田健二

[審議事項]

- (1) 第168回大会における研究発表の採否について審議した。応募用紙の審査結果に基づき、口頭発表20件、ポスター発表31件の計51件(研究発表全体で応募70件)、ワークショップ4件(応募4件)を採択することとした。
- (2) 第168回大会のプログラムを編成し、採択された口頭発表を4つの会場に割り振り、それぞれの会場の司会者を決定した。また、役割分担と今後の大会開催予定を確認した。
- (3) 大会予稿集の扱いについて検討し、第168回大会をもって予稿集を廃止し、要旨集および発表資料共有ページに移行することを承認し、必要な規程の改訂と評議員会への提案を行うことにした。
- (4) 次期委員長を小町将之氏とすることを承認し、会長に諮ることとした。

——広報委員会——

- (1) 新年度になり、会長・役員に変更があったため、ホームページ上の「会長挨拶」および「組織・役員等」の情報を更新した。
- (2) 学会からのお知らせ(大会情報・夏季講座など)および学会関連情報(公募情報・研究会情報など)を随時更新した。
- (3) ホームページのリニューアルに伴い、さまざまな不具合が確認・報告されたため、それらに対して随時対応・修正を行った。

——夏期講座委員会——

2024年度夏期講座(神戸大学)の開催形式は以下のとおり。

- 1コマ100分×1日4コマ×3講義=12講義科目, 6日間
- テキストは講師によるオリジナルのものを使用(以前は製本していたが, 2022

年から廃止)

- 夜のイベント：歓迎会（+ポスターセッション）、特別講演会、懇親会
- 受講料：学生会員 17,000 円、学生非会員 20,000 円、一般会員 33,000 円、一般非会員 36,000 円（昨今の物価高により改訂）

2026 年度の夏期講座は、金沢大学で行われる予定である（夏期講座委員長：堀博文、実行委員長：入江浩司）。

——倫理委員会——

- (1) 令和 6 (2024) 年度 4 月からの倫理委員

委員長	奥 聡	2024/04/01 ~ 2025/03/31
副委員長	小野 創	2023/10/01 ~ 2024/9/30
委員	木津弥佳	2024/04/01 ~ 2025/3/31
委員	新沼史和	2024/04/01 ~ 2025/3/31
委員	堤 良一	2024/04/01 ~ 2025/3/31
委員	江口清子	2023/10/01 ~ 2024/09/30
委員	窪田悠介	2023/10/01 ~ 2024/09/30
委員	下地賀代子	2023/10/01 ~ 2024/09/30

- (2) 昨年度から懸案であった、委員の任期に関して、規約改訂を会長・事務局長・倫理委員会委員長・倫理委員会副委員長で協議（2024 年 4 月～5 月）。改訂案を 6 月 22 日の拡大常任委員会に提案することとした。この件、倫理委員全員で情

報共有をした（6 月 3 日）。

- (3) 令和 6 (2024 年度) 6 月 29 日、評議員会において、委員の任期にかかる委員会規程の改訂が認められたことに伴い、過渡期の措置として、現在の委員の任期が以下のように変更された。

委員長	奥 聡	2024/04/01 ~ 2024/09/30
副委員長	小野 創	2023/10/01 ~ 2024/09/30
委員	木津弥佳	2024/04/01 ~ 2024/09/30
委員	新沼史和	2024/04/01 ~ 2024/09/30
委員	堤 良一	2024/04/01 ~ 2024/09/30
委員	江口清子	2023/10/01 ~ 2024/09/30
委員	窪田悠介	2023/10/01 ~ 2024/09/30
委員	下地賀代子	2023/10/01 ~ 2024/09/30

——国際発信力強化小委員会——

- (1) 2023 年度に英訳した 4 本の日本語学会論文賞論文を掲載した Gengo Kenkyu Anthology Vol. 4 を J-Stage で公開した。2024 年度は英訳した日本語学会論文賞論文 4 本を掲載した Vol. 5 を公開する予定である。
- (2) 過年度に引き続き 2024 年度も英文論文投稿を促すための企画を検討している。
- (3) 参照文献欄のローマ字化を 2024 年度内に完了させる。

【別表 1】2023 年度日本言語学会決算

自 2023 年 4 月 至 2024 年 3 月

(単位：円)

取 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	11,825,000	刊 行 費	1,703,020
雑 誌 売 上	778,700	発 送 費	251,846
科学 研究 費 補 助 金	4,000,000	事 務 委 託 費	4,500,155
科学 研究 費 補 助 金 利 息	12	大 会 関 係 費	2,633,235
預 金 金 利	306	評 議 員 会 費	177,389
大 会 関 係 取 入	2,317,750	常 任 委 員 会 費	138,880
寄 付 金	210,000	編 集 委 員 会 費	96,764
雑 益	0	大 会 運 営 委 員 会 費	195,900
基 金 か ら 繰 入	700,000	広 報 委 員 会 費	1,015,400
夏 期 講 座 関 係 取 入	0	夏 期 講 座 委 員 会 費	0
		学 会 賞 選 考 委 員 会 費	0
		倫 理 委 員 会 費	0
		国 際 情 報 発 信 力 強 化 小 委 員 会 費	3,096,157
		事 務 局 費	805,371
		学 会 賞 費	165,380
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 費	300,000
		夏 期 講 座 関 係 経 費	0
		言 語 系 学 会 連 合 費	50,000
		C I P L 負 担 金	120,000
		CIPL 言 語 学 文 献 一 覧 編 集 補 助 費	31,000
		G E A H S S 分 担 金	10,000
		通 信 費	490,731
		消 耗 品 費	188,481
		雑 費	320,877
		選 挙 関 係 費	501,604
		税 理 士 顧 問 料	341,000
		法 人 税	70,000
		予 備 費	0
		(基 金 へ の 繰 入)	
		選 挙 関 係 積 立 金	0
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 積 立 金	500,000
		夏 期 講 座 積 立 金	500,000
		情 報 保 障 関 係 積 立 金	500,000
取 入 合 計	19,831,768	支 出 合 計	18,703,190
前 期 繰 越 金	12,257,455	次 期 繰 越 金	13,386,033
合 計	32,089,223	合 計	32,089,223

◇収入内訳（単位：円）

会費		
	国内通常会員	10,116,000
	国内維持会員	0
	国内学生会員	864,000
	国内シニア会員	256,000
	国内団体会員	420,000
	国内賛助会員	40,000
	在外通常会員	105,000
	在外学生会員	24,000
	合 計	11,825,000
雑誌売上		
	書店販売	778,700
	松香堂書店（取り次ぎ業務委託）	545,600
	丸善雄松堂	138,600
	紀伊國屋書店	88,200
	その他書店	6,300
	事務局販売	0
	合 計	778,700
科学研究費補助金		4,000,000
科学研究費補助金利息		12
預金金利		306
大会関係収入		
	大会参加費	2,066,000
	第 166 回大会	1,105,000
	第 167 回大会	961,000
	大会出店料	230,000
	予稿集売上	0
	託児関係収入	21,750
	合 計	2,317,750
寄付金	第 167 回大会 同志社大学からの寄付金	210,000
雑益		0
基金から繰入		
	選挙積立金	600,000
	情報保障関係積立金	100,000
	合 計	700,000
夏期講座関係収入		0

◇支出内訳（単位：円）

刊行費

内 訳	164 号 (170 p.)	165 号 (144 p.)	計 (314 p.)
印刷費	942,700	728,640	1,671,340
抜刷代	15,840	15,840	31,680
合 計	958,540	744,480	1,703,020

※組版・校正料は印刷費に含む

発送費

『言語研究』一斉発送費	164 号	115,577
	165 号	136,269
合 計		251,846

事務委託費

4,500,155

2023 年 4 月分～2024 年 3 月分

日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた事務委託内容の覚書に基づく業務の代金

374,000 円×12 ヶ月＋郵便振替受払書類出力 12,155 円

大会関係費

内 訳	第 166 回	第 167 回	計
プログラム印刷費	0	0	0
予稿集作成費	192,225	229,625	421,850
その他印刷費 / 備品	24,750	24,750	49,500
プログラム発送費	0	0	0
その他発送費	12,058	3,126	15,184
大会費	834,345	842,556	1,676,901
講師謝金等	90,000	40,000	130,000
託児関係費	72,664	128,196	200,860
手話通訳謝礼	6,940	50,000	56,940
大会実行委員長経費補助	30,000	30,000	60,000
ノートテイキング補助	0	0	0
応募フォーム管理費	11,000	11,000	22,000
合 計	1,273,982	1,359,253	2,633,235

評議員会費	
食事・資料印刷（2回）	177,389
常任委員会費	
日当（2回），韓国言語学会旅費	138,880
編集委員会費	
投稿規程・特集号募集記事英文校閲費	10,964
J-STAGE 投稿査読システム費	66,000
Dropbox 利用料	19,800
合 計	96,764
大会運営委員会費	
日当（1回）	24,000
会場視察旅費・日当（2回）	111,900
プログラム作成謝金	60,000
合 計	195,900
広報委員会費	
ホームページ保守管理委託費	165,000
Webmaster 経費補助	120,000
ホームページリニューアル費用	730,400
合 計	1,015,400
夏期講座委員会費	0
学会賞選考委員会費	0
倫理委員会費	0
国際発信力強化小委員会費	
日当（2回）	20,000
ワークショップ（日当，謝金）	24,000
論文英訳・翻訳・編集謝金（4編）	1,622,230
Gengo Kenkyu Anthology Vol. 4 （PDF作成，J-STAGE 登載作業）	565,857
『言語研究』日本語引用文献ローマ字化	864,070
合 計	3,096,157

事務局費

日当 (4回)	40,000
旅費・日当 (2回)	49,164
外部団体の活動への協力に関する規程英文校閲費	3,207
ホームページ英訳謝金	113,000
事務局長・事務局委員活動費	600,000
合 計	805,371

学会賞費

論文賞副賞 (1件)	50,000
発表賞副賞 (3件)	115,380
合 計	165,380

多様性プロジェクト (公募型) 費 300,000

夏期講座経費 0

言語系学会連合費 50,000

CIPL 負担金 120,000

CIPL 言語学文献一覧編集補助費 31,000

GEAHSS 分担金 10,000

通信費

切手購入, 通常発送費	17,827
みずほ銀行ビジネス Web 使用料	39,600
会費請求・督促送料	154,308
オンラインクレジット決済手数料	119,010
自動引落手数料	42,091
送金手数料	64,410
残高証明発行手数料	2,200
『言語研究』追加・抜刷・バックナンバー送料	51,285
合 計	490,731

消耗品費

振替用紙印刷費	48,895
封筒印刷費	124,080
事務処理票	13,750
事務用品	1,756
合 計	188,481

雑費	
2021年度科研費繰越分返金	320,877
選挙関係費	501,604
税理士顧問料	
顧問料	198,000
年末調整・法定調書作成	33,000
決算料	110,000
合 計	341,000
法人税	
法人市民税	50,000
法人府民税	20,000
合 計	70,000
予備費	0
基金への繰入	
選挙関係	500,000
多様性プロジェクト（公募型）	500,000
情報保障関係	500,000
合 計	1,500,000

◇ 2023 年度決算 予算・実績対照表

収入 (単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
会費	11,800,000	11,825,000	25,000
雑誌売上	600,000	778,700	178,700
科学研究費補助金	4,000,000	4,000,000	0
科学研究費補助金利息	0	12	12
預金利息	250	306	56
大会関係収入	1,600,000	2,317,750	717,750
寄付金	0	210,000	210,000
雑益	0	0	0
基金から繰入	700,000	700,000	0
夏期講座関係収入	0	0	0
収入合計	18,700,250	19,831,768	1,131,518
前期繰越金	12,290,489	12,257,455	△ 33,034
合計	30,990,739	32,089,223	1,098,484

支出 (単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
刊行費	4,200,000	1,703,020	2,496,980
発送費	400,000	251,846	148,154
事務委託費	4,600,000	4,500,155	99,845
大会関係費	3,100,000	2,633,235	466,765
評議員会費	200,000	177,389	22,611
常任委員会費	500,000	138,880	361,120
編集委員会費	1,500,000	96,764	1,403,236
大会運営委員会費	500,000	195,900	304,100
広報委員会費	2,000,000	1,015,400	984,600
夏期講座委員会費	200,000	0	200,000
学会賞選考委員会費	250,000	0	250,000
倫理委員会費	500,000	0	500,000
国際情報発信力強化小委員会費	3,500,000	3,096,157	403,843
事務局費	900,000	805,371	94,629
学会賞	200,000	165,380	34,620
多様性プロジェクト(公募型)費	300,000	300,000	0
夏期講座関係経費	0	0	0
言語系学会連合費	50,000	50,000	0
C I P L 負担金	120,000	120,000	0
C I P L 言語学文献一覧編集補助費	200,000	31,000	169,000
G E A H S S 負担金	10,000	10,000	0
通信費	900,000	490,731	409,269
消耗品費	350,000	188,481	161,519
雑費	0	320,877	△ 320,877
選挙関係費	1,000,000	501,604	498,396
税理士顧問料	341,000	341,000	0
法人税	70,000	70,000	0
予備費	3,599,739	0	3,599,739
(基金への繰入)			
選挙関係積立金	0	0	0
多様性プロジェクト(公募型)積立金	500,000	500,000	0
夏期講座積立金	500,000	500,000	0
情報保障関係積立金	500,000	500,000	0
支出合計	30,990,739	18,703,190	12,287,549
次期繰越金	0	13,386,033	△ 13,386,033
合計	30,990,739	32,089,223	△ 1,098,484

◇資産勘定

2024年3月31日（単位：円）

借方	金額	貸方	金額
事務支局		前受会費	
現金	169,433	国内通常	78,000
みずほ銀行口座	12,956,039	国内学生	12,000
郵便振替口座	928,797	在外通常	7,000
科研費口座	571,715	前受金	69,300
未収金*	545,600	未払金**	1,611,595
		源泉税預り金	7,656
		次期繰越	13,386,033
計	15,171,584	計	15,171,584

* 未収金は当該年度内の収入の回収が間に合わなかった場合の科目。

2023年度決算の未収金の内訳は以下の通り。

内訳	金額
雑誌売上（松香堂書店分）	545,600
合計	545,600

** 未払金は当該年度内の支出が間に合わなかった場合の科目。

2023年度決算の未払金の内訳は以下の通り。

内訳	金額
事務委託費3月	374,000
ホームページ保守管理委託費	165,000
大会発表応募フォーム費用	22,000
郵便振替受払書類出力作業費	12,155
『言語研究』バックナンバー送料	15,840
Gengo Kenkyu Anthology Vol. 4 J-STAGE 登載	26,400
編集委員会 Dropbox 利用料	19,800
J-STAGE 投稿審査システム負担金	66,000
税理士決算料	110,000
ホームページリニューアル費用	730,400
法人税	70,000
合計	1,611,595

◇基金 決算

基金 損益計算書

(単位：円)

取 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
期首特別会計（前期繰越）	14,405,835	一般会計へ支出	700,000
一般会計から繰入	1,500,000		
定期預金金利	67		
収入合計	15,905,902	支出合計	700,000
		次期繰越金	15,205,902
計	15,905,902	計	15,905,902

基金 資産勘定

2024年3月31日 (単位：円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
みずほ銀行定期預金口座	11,400,000	積立金	15,205,902
京都銀行定期預金口座	3,805,902		
計	15,205,902	計	15,205,902

○基金内訳（目的別）

2024年3月31日 (単位：円)

記念大会積立金	1,000,839
夏期講座積立金	3,801,159
危機言語プロジェクト積立金	703,065
e-ジャーナル積立金	2,500,839
言語学普及積立金	500,000
多様性プロジェクト（公募型）積立金	3,800,000
選挙積立金	500,000
情報保障関係積立金	2,400,000
計	15,205,902

○基金内訳（銀行別）		2024年3月31日（単位：円）	
銀行名	預かり番号	名目	金額
京都銀行	003	記念大会積立金	1,000,839
みずほ銀行	078	夏期講座積立金	700,000
みずほ銀行	082	〃	200,000
みずほ銀行	088	〃	500,000
みずほ銀行	093	〃	500,000
みずほ銀行	100	〃	500,000
京都銀行	005	〃	1,401,159
みずほ銀行	074	危機言語プロジェクト積立金	300,000
京都銀行	001	〃	403,065
京都銀行	004	e- ジャーナル積立金	1,000,839
みずほ銀行	073	〃	1,000,000
みずほ銀行	075	〃	500,000
みずほ銀行	076	言語学普及積立金	500,000
みずほ銀行	077	多様性プロジェクト（公募型）積立金	300,000
みずほ銀行	079	〃	500,000
みずほ銀行	080	〃	500,000
みずほ銀行	083	〃	500,000
みずほ銀行	084	〃	500,000
みずほ銀行	091	〃	500,000
みずほ銀行	097	〃	500,000
みずほ銀行	099	〃	500,000
みずほ銀行	089	選挙関係積立金	500,000
みずほ銀行	090	情報保障関係積立金	500,000
みずほ銀行	095	〃	500,000
みずほ銀行	098	〃	500,000
みずほ銀行	101	〃	500,000
みずほ銀行	102	〃	400,000
		計	15,205,902

【別表 2】 2024 年度日本語学会予算

自 2024 年 4 月 至 2025 年 3 月

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	11,110,000	刊 行 費	4,200,000
雑 誌 売 上	600,000	発 送 費	400,000
科学研究費補助金	4,000,000	事 務 委 託 費	4,600,000
科学研究費補助金利息	0	大 会 関 係 費	3,500,000
預 金 金 利	250	評 議 員 会 費	200,000
大 会 関 係 収 入	1,600,000	常 任 委 員 会 費	500,000
寄 付 金	0	編 集 委 員 会 費	1,500,000
雑 益	0	大 会 運 営 委 員 会 費	500,000
基 金 か ら 繰 入	1,500,000	広 報 委 員 会 費	1,000,000
夏 期 講 座 関 係 収 入	7,150,000	夏 期 講 座 委 員 会 費	200,000
		学 会 賞 選 考 委 員 会 費	250,000
		倫 理 委 員 会 費	500,000
		国 際 情 報 発 信 力 強 化 小 委 員 会 費	3,500,000
		事 務 局 費	900,000
		学 会 賞 費	200,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 費	0
		夏 期 講 座 関 係 経 費	6,456,160
		言 語 系 学 会 連 合 費	50,000
		C I P L 負 担 金	120,000
		C I P L 言 語 学 文 献 一 覧 編 集 補 助 費	200,000
		G E A H S S 分 担 金	10,000
		通 信 費	900,000
		消 耗 品 費	350,000
		雑 費	0
		選 挙 関 係 費	0
		税 理 士 顧 問 料	341,000
		法 人 税	70,000
		予 備 費	7,199,123
		(基 金 へ の 繰 入)	
		選 挙 関 係 積 立 金	200,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 積 立 金	500,000
		夏 期 講 座 積 立 金	500,000
		情 報 保 障 関 係 積 立 金	500,000
収 入 合 計	25,960,250	支 出 合 計	39,346,283
前 期 繰 越 金	13,386,033	次 期 繰 越 金	0
合 計	39,346,283	合 計	39,346,283

第 168 回大会

期日 2024 年 6 月 29 日 (土)・30 日 (日)

会場 国際基督教大学 (ICU)

会長就任講演 6 月 30 日 (日) 13:00 ~ 14:00 (T-171 教室)

会長就任講演

定延 利之

公開シンポジウム 6 月 30 日 (日) 14:10 ~ 17:00 (T-171 教室)

「言語理論とフィールド言語学によるデータの接触点」

司会・趣旨説明：李 勝勲

- | | | |
|-------|--|-------|
| (S-1) | 言語理論はフィールド言語学に資するのか：北米諸語の事例から | 内原 洋人 |
| (S-2) | フィールドで得た音声データと音韻理論の接触点：ベトナム語を事例として | 山岡 翔 |
| (S-3) | 1970 年代韓国朝鮮語咸鏡道方言の音響音声学的研究 | 伊藤智ゆき |
| (S-4) | スワヒリ語マクンドゥウチ方言の記述における通時的視点 | 古本 真 |
| (S-5) | パラメーター駆動型アプローチによるバントウ諸語類型論：フィールドデータに基づく一般化に向けて | 品川 大輔 |
| (S-6) | フィールドデータとコーパスに基づく日琉諸語の研究 | 中川奈津子 |

口頭発表

—第 1 日 (6 月 29 日 (土)) 13:00 ~ 16:00—

◦A 会場 (T-229 教室)

- | | | |
|-------|--|-------|
| (A-1) | 13:00 ~ イナリ・サーミ語の双数名詞句における一致について | 長谷川朝香 |
| (A-2) | 13:35 ~ チュヴァシ語における数量詞句と定形動詞の一致 | 菱山 湧人 |
| (A-3) | 14:20 ~ ソマリ語における 2 つの焦点構文により焦点化される構成要素の統語的特徴 | 上野 瞭太 |
| (A-4) | 14:55 ~ ベトナム語の所有標識 <i>của</i> と所有者の類別詞使用について | 王 丹 |
| (A-5) | 15:30 ~ 閩南語の声母 /h/ の実現形と声調の関係について | 馬 楷場 |

◦B 会場 (T-270 教室)

- | | | |
|-------|--|---------------------------------|
| (B-1) | 13:00 ~ 発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関 | 鈴木あすみ
幕内 充
小磯 花絵
中村 仁洋 |
| (B-2) | 13:35 ~ 日本語大規模読み時間コーパスにおける記憶の負荷の CCG によるモデリング | 磯野真之介
梶川 康平
大関 洋平 |
| (B-3) | 14:20 ~ アクセントの誤りがもたらす語の認知の阻害：意味ブラッキングによる検討 | 有賀 照道 |
| (B-4) | 14:55 ~ 日本語 NPI の錯覚的認可はいつどのように起こるのか？—容認性調査と脳波計測を用いて— | 志村 瑠莉
矢野 雅貴 |
| (B-5) | 15:30 ~ 時間的制約の異なる 5 種類の文容認性判断実験による文法的錯覚の生起メカニズムの検証 | 峰見 一輝 |

◦C 会場 (T-328 教室)

- | | | |
|-------|---|----------------|
| (C-1) | 13:00 ~ 北琉球奄美大島方言における尊敬接辞 -timor- の地域差と変化について | 重野 裕美
白田 理人 |
|-------|---|----------------|

- (C-2) 13:35 ~ 琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて一言語系統樹の客観的作成手法を検討する一 セリクケン
麻生 玲子
松波 雅俊
- (C-3) 発表取り消しとなりました
- (C-4) 14:55 ~ 『万葉集』二合仮名における母音挿入規則について 西村 康平
- (C-5) 15:30 ~ 現代日本語における「のこと」と示差的目的語表示 横山力玖斗
。D会場 (T-364 教室)
- (D-1) 13:00 ~ Make Sure における下位範疇化素性の動的な拡張 高松 龍
- (D-2) 13:35 ~ ボックス理論と移動要素の不可視性について 小野 竜大
- (D-3) 14:20 ~ 日本語の格脱落現象の再考～分散形態論からのアプローチ 笠井 源
- (D-4) 14:55 ~ 日本語の形容詞述語の項の統語的位置と格標示に関する一考察 森田 千草
- (D-5) 15:30 ~ 英語における屈折形態素 三人称単数現在の -s の脱落の要因に関する計算言語学的分析 岡村 康平

ポスター発表

—第1日 (6月29日(土)) 16:20 ~ 17:50— (P会場 ダイアログハウス食堂)

- (P-1) 中国語の形容詞述語文における統語的な制約について 岳 昱澎
小川 芳樹
- (P-2) Verum 焦点と文強勢：中国語の副詞 ke の例から 伊藤さとみ
- (P-3) 掲陽閩南語の後部変調におけるチェーンシフトと中和の様態 陳 凱僑
- (P-4) 韓国語の -ki 名詞化と -m 名詞化の統語構造 葉 晨傑
- (P-5) 現代朝鮮語における評価的意味を表す文法形式 黒島 規史
- (P-6) 状態変化自動詞に受身を表す形式が後接するとき—韓国語 -eci- 構文の場合— 鄭 宇鎮
- (P-7) 時間間隔における時間性とアスペクト性の交わり：韓国語の時間表現を中心に 川畑 祐貴
- (P-8) 活格言語における栄紅光語と AP 配列 陳 韻雯
邱 曉石
- (P-9) 属格主語が可能な言語の性質：格パターンと述語同一性 牧 秀樹
セ^hステルバ^h
- (P-10) キルギス語における補助動詞構造 -(I)p jat- [-CVB.SEQ.lic-] の文法化形式 -bat について 日高 晋介
- (P-11) チェコ語の関係節における代名詞残留—直接目的語位置に着目して— 松山 芳瑛
- (P-12) セデック語の語順頻度：コーパスに基づく分析 楊 棟文
徐 小曼
小泉 政利
- (P-13) 中心心理論によるセデック語の談話の分析：指示表現の実現と態に着目して 徐 小曼
楊 棟文
小泉 政利
- (P-14) イロカノ語の重音節重複のパターンに対する動機付け 山本 恭裕
- (P-15) 現代モンゴル語の deer 「上」の後置詞としての意味と用法 山田 洋平
—とくに与位格との対照から— ハ^hスバ^hヤルムンダラム
- (P-16) アラビア語チュニス方言の語りにおける末尾の文について 熊切 拓
- (P-17) 前置詞から見るベルシア語の他動性 —前置詞 az に着目して— 永井 慧
- (P-18) A corpus-based approach to the reconstruction of Okinawan consonants in the 18th century Chihkai Lin

- (P-19) 日琉祖語 *s に対応する南琉球八重山諸語の破擦音から考える音変化の自然性 中澤 光平
麻生 玲子
- (P-20) 九州方言における「行く」を表す動詞に見られる不完全な補充法：福岡県柳川市方言を中心に 松岡 葵
- (P-21) ケセン語におけるサル表現と自他交替動詞の共起可能性再考 新沼 史和
新沼 清歌
- (P-22) 個人および生成 AI の「が」・「の」主語嗜好性：文学作品と実験データに基づく初期研究 宮崎 順大
牧 秀樹
- (P-23) 日本語における無助詞項名詞句の生起に関わる情報構造的条件について 大島 デイヴイット 義和
- (P-24) 複合動詞 (V1 + V2) の V2 に「始まる」・「続く」が生起する表現について—「V され {始まる / 続く}」という表現を中心に— 森 貞
- (P-25) 名詞重複における「数々」の示す解釈：Higher-Order Implicatures を用いた分析 立野 寛太
- (P-26) 日本語の動詞句分裂文と動詞句前置の統語的共通点 藤巻 一真
- (P-27) 空間的場所表現の類型論：通言語的に妥当な新定義とそれに基づいた理論的考察 水野 庄吾
- (P-28) 日本語複動詞文における単節性と事象認知の関係：実証的アプローチ 印 雨琪
- (P-29) VP-nominalization in non-subject honorification in Japanese Kyoko OGA
- (P-30) 日本語における固有名詞を修飾する数量詞：強意表現としての分析 於保 淳
- (P-31) No-da construction and pragmatic presupposition Shigeto KAMANO

ワークショップ

—第2日（6月30日（日））9:30～11:30—

◦ワークショップ1（A会場 T-229）

- (W-1) Ellipsis and Head Movement at the Syntax-Semantics-Pragmatics Crossroad: Japanese and Beyond 企画者・司会者：小林亮一朗
Ryoichiro KOBAYASHI
- (W-1-1) Introduction Ryoichiro KOBAYASHI
- (W-1-2) Argument ellipsis, pragmatic enrichment and head movement: Why is Japanese so special? Yosuke SATO
- (W-1-3) Head movement does not necessarily affect scopal relations: Arguments from syntax and semantics Kenta MIZUTANI
Ryoichiro KOBAYASHI
- (W-1-4) Where to draw lines between syntax and pragmatics in ellipsis: Licensing of null arguments and adjuncts in Japanese Tomoya TANABE

◦ワークショップ2（B会場 T-270）

- (W-2) 世界の言語の示差的項標示：要因と機能に注目して 企画者：鈴木 唯, 諸隈 夕子
司会者：鈴木 唯
コメンテーター：諸隈 夕子
- (W-2-1) タガログ語の示差的目的語標示 長屋 尚典
林 真衣
- (W-2-2) ガレ語の示差的 A 標示 吉田 樹生
- (W-2-3) ティディム・チン語の示差的 A 標示 周 杜海
- (W-2-4) ベンガル語の示差的受領者項標示 石川さくら

。ワークショップ3 (C会場 T-328)

(W-3) 言語と非言語の時間生成—言語はなにをしているのか

企画者・司会者：嶋田 珠巳
 コメンテーター：北澤 茂, 川畑 祐貴

(W-3-1) 時間の理解の進化と発達

平田 聡

(W-3-2) 時間を表す文法と語彙の要素

鍛冶 広真

(W-3-3) 時間知覚と談話における参照点移行

嶋田 珠巳

(W-3-4) 言語の脳内情報表現と時間スケール

西本 伸志

。ワークショップ4 (D会場 T-364教室)

(W-4) 使役事象の認知意味論：それは誰がしたことなのか

企画者：田中 太一
 司会者：長谷川明香
 コメンテーター：西村 義樹

(W-4-1) 使役の事象構造を考える

長谷川明香

(W-4-2) 日本語の無生物主語他動詞文の「結果性」—「風が窓を叩く」
 を中心に—

田中 太一

フルマワボリサ

(W-4-3) トルコ語における（非意図的）許容使役

ヤイルオール オガン

(W-4-4) 認知言語学は使役についてどう考えるべきか

田中 太一

松田 俊介

長谷川明香

◇退 会

国内通常会員：83名
在外通常会員：5名
国内学生会員：55名
在外学生会員：2名
国内团体会員：2名
147名

◇入 会

国内通常会員：14名
在外通常会員：1名
国内学生会員：30名
在外学生会員：2名
47名

2024 年度役員

【会長】

定延利之

【顧問】

上野善道, 影山太郎, 梶 茂樹, 窪蘭晴夫,
柴谷方良, 田窪行則, 早田輝洋, 福井直樹,
松本克己

【常任委員 (GEAHSS 担当†, 言語系学会連 合担当‡)】

青木博史, 上山あゆみ, 菊澤律子, 小林
正人‡, 滝浦真人, 千田俊太郎, 中山俊秀,
広瀬友紀, 堀江 薫†, 松浦年男, 宮本陽一

【事務局】

南本 徹 (事務局長), 鄭 雅云, 脇坂美和子

【評議員】

青木博史, 青柳 宏, 赤楚治之, 天野みどり,
庵 功雄, 五十嵐陽介, 伊藤さとみ, 井上 優,
上田 功, 上山あゆみ, 内堀朝子, 江口 正,
江畑冬生, 大島 David 義和, 大津由紀雄,
奥 聡, 尾谷昌則, 越智正男, 小野 創,
風間伸次郎, 梶 茂樹, 加藤重広, 岸本秀樹,
北原久嗣, 北原真冬, 木部暢子, 桐生和幸,
金水 敏, 窪蘭晴夫, 窪田悠介, 呉人 恵,
小泉政利, 小西いずみ, 小林正人, 斎藤 衛,
佐々木冠, 澤田 治, 白井聡子, 沈 力,
杉崎鉦司, 滝浦真人, 田窪行則, 竹沢幸一,
田中伸一, 田中真一, 千田俊太郎, 塚本秀樹,
時崎久夫, 中谷健太郎, 長屋尚典, 那須川
訓也, 成田広樹, 西村義樹, 野田尚史, 林 徹,
林 範彦, 原田なをみ, 広瀬友紀, 福井直樹,
藤代 節, 堀 博文, 堀江 薫, 松浦年男,
松本 曜, 三宅知宏, 宮本陽一, 由本陽子,
吉田和彦, 米田信子, 鷺尾龍一

【編集委員会】

加藤重広 (委員長), 安藤智子, 江畑冬生,
衣畑智秀, 倉部慶太, 菅沼健太郎, 高木千恵,

高橋洋成, 田中牧郎, 田村幸誠, 中野陽子,
西山國雄, 藤井友比呂

【特別編集委員】

Lisa Cheng, Wesley Jacobsen, 金 周源, Terje
Lohndal, Andrej Malchukov, Armin Mester,
富岡 諭

【大会運営委員会】

小町将之 (委員長), 浅尾仁彦, 小野智香子,
甲斐ますみ, 北田伸一, 久保蘭愛, 田川拓海,
中野陽子, 平山真奈美, 矢野雅貴, 吉田健二,
李 林靜

【広報委員会】

杉崎鉦司 (委員長), 蝦名大助, 大滝宏一,
児倉徳和, 志波彩子, 高橋久子, 月田尚美

【夏期講座委員会】

木山幸子 (委員長), 入江浩司, 内堀朝子,
古賀裕章, 林 範彦, 堀 博文

【学会賞選考委員会】

滝浦真人 (委員長), 青木博史, 上山あゆみ,
広瀬友紀, 堀江 薫, 田中真一, 長屋尚典,
米田信子, 加藤重広, 江畑冬生, 松浦年男,
小野智香子

【倫理委員会】

奥 聡 (委員長), 江口清子, 小野 創,
木津弥佳, 窪田悠介, 下地賀代子, 堤 良一,
新沼史和

【国際発信力強化小委員会】

佐々木冠 (委員長), 李 勝勲, 宇都木昭,
倉部慶太, 澤田英夫, 白石英才, 沈 力,
中村 渉, 平子達也, 山越康裕

【会計監査委員会】

有田節子, 石井 透